

懐古館（古民家）

七尾城跡への入り口、城山のふもとにある広場には、苔の生えた茅葺屋根の、大きな伝統的住宅が建っています。この住宅は、1820 年に、飯田家のために建てられました。飯田家は、加賀藩（現在の石川県）の村役人・世話役（肝煎）を務めていました。

この住宅は、民俗博物館として公開されています。19 世紀の裕福な農家の住宅が、みごとに保存されています。茅葺の入母屋造りやいろりといった、当時の建物の造りが残っており、飯田家が所有していた家財道具と美術品も展示されています。苔に覆われた庭石と井戸のある広い庭園が住宅を囲んでいます。

この住宅を訪れる人は、土間の入口から居間に入ることができます。居間の中心には、いろりがあります。そこで家族が集まって食事をしたりくつろいだりしたのでしょう。いろりの上には、鍋を吊るすためのかぎが下げられています。壁には、装飾的な屏風が並んでいます。隣の部屋には、一家の仏壇が置かれており、欄間には有名な風景が彫られています。

住宅の裏側に面した部屋からは庭が見渡せます。これらの部屋は、正式なもてなしのために使われていました。大きな絵は、1577 年に七尾城を占領した有力大名・上杉謙信（1530～1578 年）を描いたものです。自軍が七尾城の本丸を落とした後、謙信が家臣に囲まれて座り、詩を作っている

場面です。

懐古館 (歴史的住宅) は、毎日午前 9 時から午後 5 時まで開館しています。(月曜と、12 月中旬から 3 月中旬までの冬季は閉館します。)